

「実践的東京国立博物館ガイド」 ～ 東博を効率よくガイドするには～

2016年7月20日実施 JGA第一支部研修 終了レポート

東京国立博物館といえば、日本で最も長い歴史をもつ博物館。その収蔵品は11万を超え、展示館も本館・平成館など全5館。私達通訳ガイドはどこをどのようにご案内すればよいのか、元東博ボランティアの久保由紀子正会員に、実践的な方法を教えて頂きました。

*正面玄関から本館まで

本館（日本ギャラリー）は鉄筋コンクリート造りに瓦屋根を乗せた和洋折衷の帝冠様式で、日本で一番大きな重要文化財。本館前の大木は東博のシンボルツリーである“ゆりの木”で、木陰のベンチは絶好のミーティングポイントです。



*本館入口から2階へ

限られた時間の中で日本美術の流れをご案内するのであれば、本館2階がお勧めです。本館に入る前に、傘、筆記用具、飲み物、写真撮影などへの注意事項を要領よくお伝えしましょう。2階へ上がる階段も、ステンドグラスや大時計の美しさなど、見どころがたくさんあります。

*2階の1室から10室まで

1室の縄文時代から10室の江戸時代まで、時代やテーマごとに部屋が分かれています。収蔵品は定期的に入れ替わりますが、中には展示替えしないものもあるので、それをしっかり勉強しておけば実際のガイドに役立ちそうです。また、展示は日本らしく季節感を重視しています。例えば、今は夏らしく、浮世絵では歌麿の「両国花火」や国芳の金魚づくし、ガラス製の櫛や笄・簪など、展示品から日本の季節を味わう事ができます。さらに久保講師から、「東博は収蔵品の多さの圧倒されがちですが、お気に入りの一点を見つけようという観点がよいのでは」とのアドバイスがありました。

*1階「緑のライオン」と庭園テラス

お子様連れのお客様に喜ばれるのが「緑のライオン」という体験コーナー。日本独特の様々な文様のスタンプを使って絵葉書をデザインする事ができます（無料）。また、晴天時は1階の奥の庭側の扉を開けて、テラスに出て日本庭園を展望できます。あふれる緑が爽やかで、ホッと一息つける絶好の場所です。研修はここで終了となりましたが、久保講師のアドバイスで、参加者はショップ、東洋館、資料館など、それぞれご興味のある場所に向かわれました。



今回の研修では2階の展示室1室～10室に要した時間は約1時間。コンパクトにまとめつつポイントを押さえたご案内の方法を実践した、貴重な研修となりました。

（参加者：午前の部15名、午後の部14名）